

地震だから学べること

なぎさ小学校 五年三組 金井 莉香

私達は、いつも沢山の人から愛されていることを岸本さんにお知らせしました。私は、双子の弟がいます。二人はとてもやんちゃで、いつも元気よく遊んでいます。でも、大阪神洲路大震災が起きたいな地震がおきるというものは、しゃいでいる弟の顔も涙目になりそうです。

一九九五年一月十七日 午前五時四十六分

神戸市にても大きな地震がありました。

「阪神淡路大震災」です。家もくずれ、山もくずれ、町は一瞬にして神戸の町を変えました。想をうそつかない、すがたになつてしまつたのです。

水も電気もガスも止まり、食べ物もありませんでした。弟はいつも、

「何か食べたい、何か食べたい。」と言っているのに、地震の時はどうするのかわからず、

私はできるだけ

「おなかすいた」

とは言いたくないです。その分お父さん、お

母さんが心配するからです。

沢山夫、た物、沢山困、たこといるいるあ、

たと思えます。でも沢山助け合、たごともあ

るでし^まう。困、た分、助けてもら、たこと

がい、ぱいあると思えます。

沢山ボラニテ、アの人がかけつけ、食べ物

や、もうふをくれました。食べ物一つで一人

救われるなんてすごいいと思います。千^ココシ

「ト一つでもつかねがとれ、また、がんば

ろう」。と思えると思えます。

「自分だけが助かれればいい」。

絶対思、てはいけな^いこと。家族や友達ボラ

ニテ、^いアの人達、みんなのささ^まで生きてい

る。愛されているからさ^まま、^まいる。

お金がいくらあ、ても、食べ物がいくらあ

ても気持ちがないと人は、生きていけない

と思^う。愛すること愛されること、みんな気持ち

かする。おぶ。